



え「モノ（生産物）の消費拡大問題」も重要です。阪急箕面駅前やかやの広場などで毎週朝市が開催され、多くの市民で賑わっています。

朝市の充実にあわせて漬物、佃煮、ジャムといった加工品への取組みや、飲食店などとの異業種連携も広がりをみせています。（箕面産を使う飲食店は「箕面逸品」のタペストリも見られます）

開店前から行列ができる朝市の風景は、農家にとって自分のつくった野菜を地域の方が食べてくれるという「喜び」が実感でき、それが営農意欲（やりがい）につながります。朝市など地産地消の活性化が「農業の魅力」として若者を惹きつけ、後継者のUターンにつながることを期待されます。

それでは、援農ボランティアや消費者など地域の総力でもって都市農業を支えるシステムを持続、強化していくにはどうすればよいのでしょうか。

都心では隣人の顔も知らないことも多々あります。しかし、箕面には田畑があることでコミュニティがつながっているのとは感じます。石丸地区などのレンゲ祭りは多世代コミュニケーションの場です。また、子どもにとって、生き物観察ができる通学路沿いの田んぼは「学びや遊びの場」です。開放感あふれる農空間はあわただしい現代生活と対比するもので都市ストレスを癒してくれます。農地はゲリラ豪雨など、多量の雨水を土に浸透させ、私たちを守ってもくれます。



農地というストックを守っていくことは、新鮮な旬野菜を提供してくれるという以上に、わたしたちの生活に豊かな果実をもたらしてくれます。「環境」「教育」「福祉」「交流・憩う場」「防災」……。

冒頭にも述べましたが、一旦農地がコンクリートに変貌すると、コンクリートを壊しても農地としては復元できません。まちなかに広がる農地の恵み（存在意義）を多くの方に知っていただき、地域の財産として地域コミュニティが一体となって応援していくことが、農地の保全への大きな原動力です。

水路清掃など地域活動への参加、農業サポーターとして繁忙期のお手伝い、食材はなるべく地元産を購入、何気ない「お疲れ様」の一言……ひとり一人の小さな参加が未来への投資（農地を守る）ということなのです。

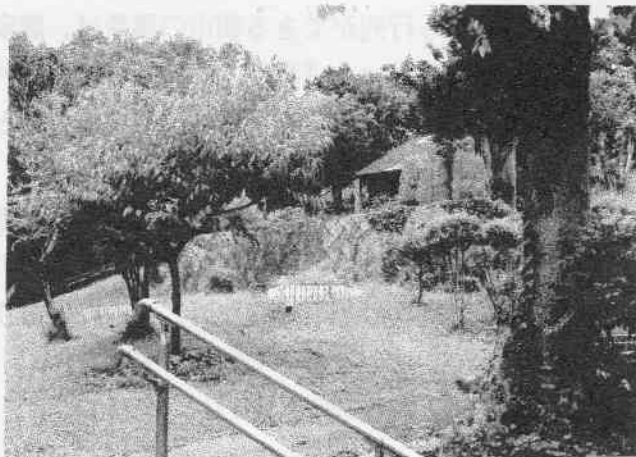
” 椿ハイツ箕面山麓公園美化活動実行委員会”

会員約 20 名、平成 13 年発足、 代表者 杉本 清一

椿ハイツは、山麓線の北側に建つマンションで、100 戸程の住民が暮らしています。企業など第一線で活躍されていた住人も、子育ても終わり、それぞれも第一線を退く頃を迎えていた。南側に隣接する山麓公園は、箕面市内でも数少ない地形を活かした里山公園で、沢山の樹木が茂り、最高点の展望所からは、萱野中央から千里丘陵、遠く生駒山などが一望される。

何時もマンションの窓から眺望を楽しんでいた人が、眼下の公園は私達の庭の様なもので、庭や土と接しないマンション暮らしを潤すには、これを活用したらと考えた。しかし、公園と云っても、草木は延び放題、ゴミも散らかっていて、人々が寄り付かない。市に相談しても予算と人手の問題で、満足できる状態になりそうも無いことを知った。

そこで、マンションの住民に呼びかけて、草刈りや掃除から始めた。やがて花を植えようと話が膨らみ住民に参加の輪が広がった。高木の剪定などは市と協議しながら、低木や草刈りは住民が担当した。とは云え草刈りは大半が傾斜面作業で、草刈機操作に格段の危険が伴ったが、少しずつ習熟度を上げ克服した。保険にも加入しケガに対応した。里山だけに、剪定した樹木や、草、ゴミ類は全て周辺道路脇まで下ろす作業に苦労した。



その結果、公園が見違えるほど美しくなり、木漏れ日の下、爽やかな風の流れる公園となった。市外からも公園を訪れる人もあり、子供たちの元気な声も響いている。

男衆は作業後、慰労の酒会を楽しんだ。常日頃、何処へ勤め、何をしている人か、挨拶は交わすが全く交流が無かったが、酒を片手に話が弾み、親密度が深まった。勿論、公園の美化活動の進め方や、花壇作りの方策、作業日程などが話題の中心だったが、会を重ねるうちに、住民の絆を深め、

外出を控えている高齢者に、花壇の散策を企画したり、桜の花見、紅葉狩りを催した。一方奥様方も女子会よろしく、花の種まき、水やり、移植など、ワイワイ話しながら、花壇造りを楽しんでいる。たまには旦那会に対抗してお茶会も開いている。

会の目的が、公園の美化に始めたが、マンション住民の絆作りに重点が移って来ている。自治会は沢山あるが、男衆の飲み会 ?があるのは、非常に珍しく此処で結ばれた絆が、急速に進む高齢化社会へ対応する基盤を造っている。一人住まいの高齢者にも声を掛け合い。互いの消息をプライバシーを守りながら共有する土壌が醸成している。

箕面小学校では、教育目標として「支え合い ともに伸びゆく 箕面小っ子」を掲げ、さらに、1学期は「気持ちのよい あいさつをしよう」を生活目標に取り組んでいます。

学校の歴史は、副読本「わたしたちのまち箕面」を使用して4年生の社会科で勉強していますが、メモリアルルームを設け箕面小学校の歴史に関わる資料を保管しています。



ご承知のように、箕面小学校は、明治7年(1874)箕面村立小学校として開校し、

箕面市で最も古い学校です。人口の増加、街の発展に伴い、南小学校、西小学校、中小学校が分かれていきました。進学する中学も、以前は第一中と第二中に分かれていましたが、現在は全児童が第一中学校に進学します。

学校周辺の街の様子、特徴は、住宅地がほとんどで、田畑はほんのわずかしかなかったり、市内でも古くから開発された地域の一つで、その証として、校区を東西に西国街道、南北に箕面街道が通り、札の辻には古い道標も存在しています。昔からあった牧落、西小路、桜。その後が開発された百楽荘(大正13年)は、生垣の美しい箕面でも代表的な街並み(景観配慮地区)です。近年、国道171号の南側(箕面街道の西)に大きなマンションが建設されました。

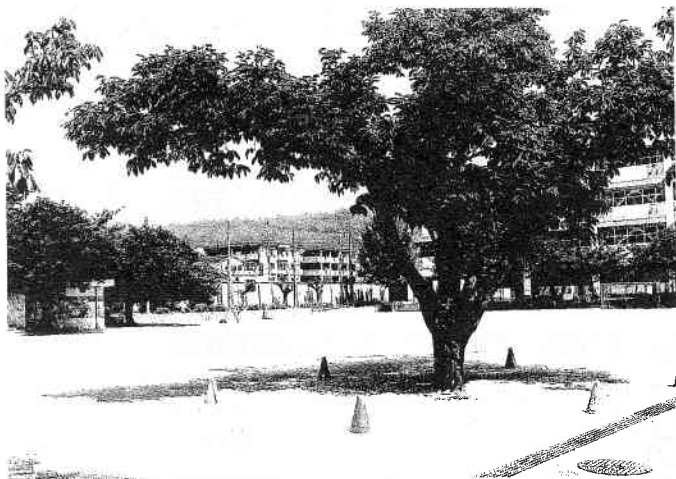
このような街の状況、みどりなどに付いて、1年生、2年生の生活科で校区探検をして、公園や街の様子を調べ、結果を絵地図にまとめ学習しています。

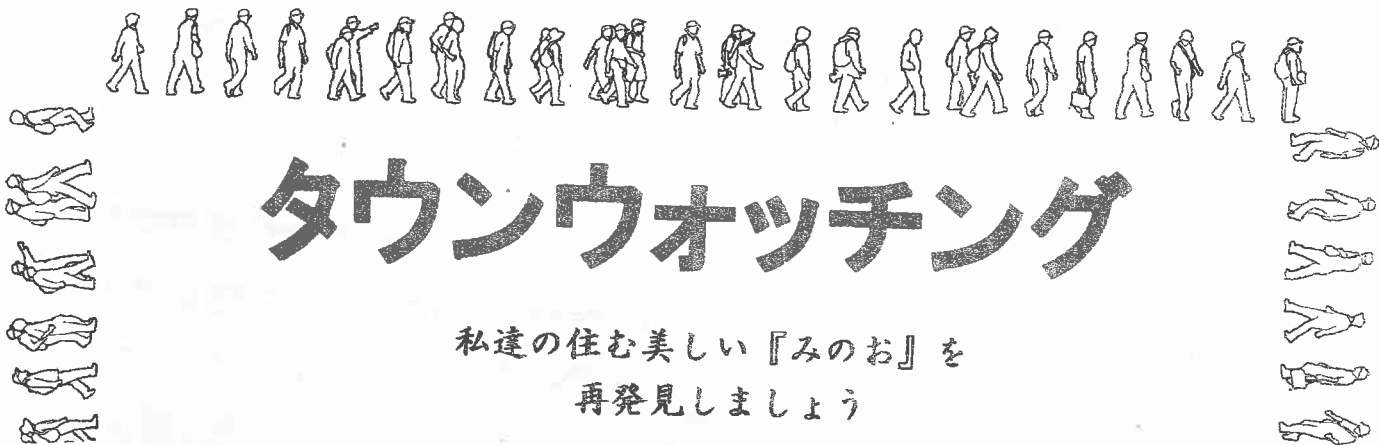
ここで、学校の自慢話をします。現在の場所に学校が建つ以前から生育し、多くの卒業生に愛されてきた箕面小のシンボルの柿の木が、残念ながら今年枯れてしまいました。しかし、その二代目の柿の木が育っています。親の木が枯れてしまった今年、二代目の柿の木に多くの実が付き、生命が引き継がれています。

また、長年朝顔の鉢植えを児童が丹精込めて育て、近隣のお年寄りに贈っており、児童とお年寄りの交流も続けています。

校区の皆様は、「地域の子どもは地域で育てよう」という意識が大変高く、子どもたちのための地域行事の実施(運動会、祭り、土曜講座、餅つき大会など)、通学の見守り活動など積極的にしていただいています。校区を支える皆様のご尽力が、次代の子どもたちの心に残り、良い伝統が引き継がれることを信じています。

(森井校長先生のお話より)





タウンウォッチング

私達の住む美しい『みのお』を
再発見しましょう

みのお市民まちなみ会議では、年間 8回ほどタウンウォッチングを行い、みなさんと一緒に街を見て歩いております。参加自由ですので、歩きながら、新しい発見をしましょう。箕面には歴史もあり、素敵な街並みが沢山あります。しかも、街は刻々と変化していて、驚かされます。

本年 4,5月に歩いたコースを紹介します。これらのコースは、昭和40年代前後に、市街地を大きく変えた、商業団地、住宅団地、宅地造成で変貌した街なみを、往時を忍びながら歩きました。探訪、散策の供として参考にして下さい。

まちなみウォッチング 第65回

粟生丘陵など

2012. 4. 21

粟生丘陵から帝釈寺、田園地帯を辿る

ウォッチングコース

歩行距離 約 5.0Km

問谷住宅 B/S → 東図書館 → 粟生第 4住宅 → 豊川住宅 → 粟生霊園下 → 箕面東高校前 → 帝釈寺 → バラ園 → 景観形成地区住宅 → 尺下池 → 石丸れんげ畑 → 千里川畔 → 萱野中央

問谷住宅 B/S付近は昭和46年に始まった住宅公団による大規模な宅地造成の中心地で、出発後、東図書館から北、東の展望を楽しむ。ガラシャ病院、阪大外国語学部にかけて、東山

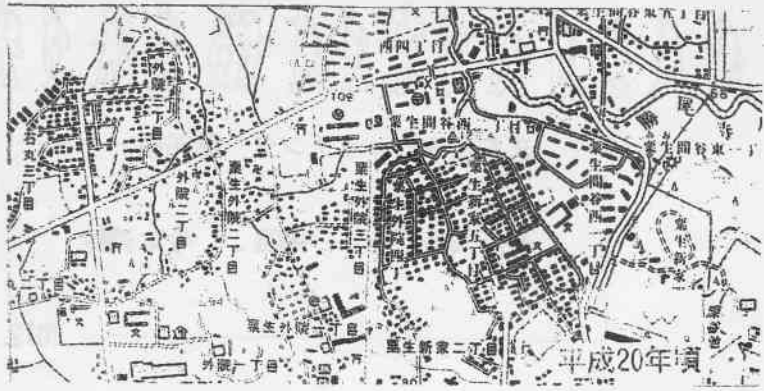


住宅、問谷東住宅、手前に奥、中村、山之口の旧集落が連なり、彩都の造成地が見える。図書館の位置は、粟生丘陵の北斜面で、眼下に勝尾寺川が蛇行していることが判る。

東へ進むと、左手の展望が開け、古くからの道 小野原・中村線が地

形の起伏を示している。第4住宅の東端を回ると、第六中学などが、左下に見える。さらに国道171号線に向けて下っている。つまり第4住宅は、粟生丘陵の尾根に建っていることが判る。

豊川住宅を上りきると、粟生丘陵



前住職の奥様より寺の歴史などを伺った。また境内の五葉松の大樹（前号 VIVA に記載）跡などを見物する。枯死が心配された枝垂れ桜も復活しつつあった。

狭い路地が複雑に入り組んだ粟生外院集落を巡り、土地の旧地主が開いたバラ園を見物する。時期が少し早かったが、季節には見事なバラが咲き誇っている。宝塚の園芸デザイナーに依頼して造ったもので、規模は小さいが本格的な美しい花園だ。

の一角に奥、中村、山之口、粟生外院の共同墓地が残っている。平安末期以来の歴史をもち、一带を「墓の谷」と称していた。

粟生霊園から西へ進むと、右は第三住宅、左は豊川、外院の里住宅となり、丘陵の尾根道が箕面東高校前まで続く。付近では新しい戸建住宅も増えている。左手コスモ箕面の駐車場付近が丘陵の最高点（150m）と推定される。粟生外院から中村への旧道を辿って帝釈寺へ向かう。



外院2の住宅地は、開発業者が事前に景観形成地区の指定を受けて、建てたもので、指定をセールスポイントにした珍しいケースで、道路も幾何学模様の石畳、洒落た雰囲気漂わせている。

尺下池、為那都比古神社、サントリートレセンを経て、石丸のレンゲ畑に到着する。一面のレンゲは、石丸地区の同好会の方々が、毎年お世話して「れんげ祭り」を開いている箕面に残る数少ない田園地帯だ。



石丸集落から、小さな桃畑、レモン畑を経て千里中央へ帰着した。





まちなみウォッチング 第66回

船場西、稲、牧落

2012. 5. 19

千里丘陵を巡り、旧き稲の山野を思う

ウォッチングコース

歩行距離 約 5.0Km

- 新船場南橋 B/S → 新船場南公園 → 千里緑地 → 豊島高校前 → 千里緑丘団地
- 冷谷池 → 駒ヶ谷 → 五中裏 → 西脇公園 → 箕面高校裏 → 牧落交差点
- 大通庵公園 → 市役所別館



昭和 40 年頃

筋西のみどりのベルト、新船場南公園の西側は、従業員の居住区として、建設された。その後繊維産業の構造変化、廃業で撤退が発生し、跡地に戸

新船場南橋を渡り新御堂筋を横断する。繊維団地の造成に伴って昭和45年に開通したもので、道の両側は繊維問屋の店舗、一



平成 20 年頃

建て住宅、マンションの建設が進んでいる。

公園を散策後、一旦、新御堂筋へ出て、豊中市域に入ると千里緑地が住宅街を带状に囲



む。延々と服部緑地まで続き、豊中市のみどり景観の柱となっている。豊島高校前を過ぎて、比較的新しい千里緑丘団地に入る。傾斜地を活

